唐津エリア

❶ 唐津石炭用所跡
明治4年（1871）に明治海軍へ納入する唐津の石炭を管理する役所が設置され、明治14年（1881）に現在の東城内駐車場に移転しました。明治23年（1890）に閉鎖。

❷ 満島港
幕末期に採炭された石炭集積場跡で、満島には、薩摩・熊本・久留米藩などの石炭問屋も建ち並んでいました。満島に集積された石炭は、小舟で高島沖合に待機する蒸気船等の大型船に運ばれました。

❸ 来迎寺
幕末、唐津藩石炭方として活躍した三井令輔の墓があります。

❹ 旧大島邸
鉄道や銀行、電灯の設置など唐津の近代化に貢献した大島小太郎の邸宅。なお、この敷地は、芳谷炭鉱を開坑・経営した竹内綱（首相吉田茂の父）・明太郎（小松製作所創始者）親子の邸宅が明治44年（1911）まであった場所です。

❺ 旧高取家住宅（国重要文化財）
相知炭鉱の経営や、後に杵島炭鉱の経営に成功し「肥前の石炭王」と称された高取伊好が明治37年（1904）に建てた邸宅です。

❻ 妙見駅跡

❼ 税関跡

❽ 旧三菱合資会社唐津支店本館（県重要文化財）
大島から国内・国外に唐津の石炭を売買していた三菱が、明治41年（1908）に建てた唐津支店本館です。昭和8年（1933）に三菱が唐津から撤退するまで使われました。

❾ 大島駅跡

❿ 旧唐津国際港跡（西唐津港）

西唐津港（明治後期　国立国会図書館ウエブサイトより）

相知エリア

❶ 三菱相知炭鉱第二坑跡

❷ 三菱相知炭鉱中心街跡
明治33年（1900）に高取伊好より相知炭鉱を買収した後、三菱が造った商店街や市場などがあった中心街の跡です。

相知炭坑（明治44年ごろ　国立国会図書館ウエブサイトより）

❸ 竪坑・事務所跡
現在、三栄興産（株）の敷地内には、竪坑跡や相知炭鉱の記念碑が建立されています。立ち入りには、会社の許可が必要です。

❹ 市場跡

❺ 三菱職員社宅跡

❻ 和田山神社・動物園跡
三菱が建立した和田山神社が現在も残っています。当時、神社一帯は公園となっており、三菱が造った佐賀県初の動物園などもありました。

❼ 岩栄土場跡
慶応元年（1865）より熊本藩が相知地方で石炭採掘を開始すると、この岩栄土場に石炭を集積し、松浦川河口に運搬していました。

❽ 唐津藩御手山跡
唐津藩の石炭採掘山跡。元治元年（1864）にこの地に藩の石炭採掘を管理する「御手山地方詰所」も置かれました。

❾ 薩摩山跡（かご岩）
元治元年（1864）頃より厳木地方で石炭採掘を行っていた薩摩藩でしたが、慶応年間（1865～1868）より相知地方でも採炭を開始しました。この鹿児岩に残る薩摩山は、相知地方での薩摩藩の石炭採掘場所の1つです。

北波多エリア

❶ ドウメキ
18世紀に初めて唐津で石炭が発見された場所。その後、唐津藩の御手山の1つとして石炭が採掘されました。

❷ 第三坑跡
芳谷炭鉱の第三坑口跡。下部の大半は埋め立てられていますが、赤レンガで造られた入口上部や花崗岩に刻まれた「第三坑」の銘板が残っています。なお、第三坑跡は民家の敷地内にあるため、立ち入りには許可が必要です。

❸ 石炭積込場跡
当時、前面には明治45年（1912）に開通した岸岳線の鉄道が敷かれており（昭和46年廃線）、ここで積まれてた石炭は、唐津港のある大島（唐津市西大島町）まで鉄道輸送されました。

❹ 奉安殿跡
明治32年（1899）、芳谷小学校敷地内に造られた奉安殿（天皇・皇后の写真や教育勅語が納められていた建物）跡です。

❺ 三菱芳谷炭鉱中心街跡
明治44年（1911）に三菱が芳谷炭鉱を買収すると、この場所に商店街や料亭などが建てられました。

❻ 第一坑跡

❼ 三菱芳谷炭鉱事務所跡

❽ 三菱職員社宅・長屋跡

❾ 第二坑跡

芳谷炭鉱（大正末期　唐津市所蔵）

唐津石炭ヒストリー

1700年前半	北波多村の岸山で唐津で初めて石炭が発見される。
1788年	唐津藩が石炭の専売制を開始。また、石炭採掘に関する法律を制定し、9箇所で石炭採掘を開始。また、相知・厳木地方でも石炭が採掘される。
1789年	唐津藩より武士に対して、薪に代わって石炭が支給される。
1805年	唐津藩の御手山（石炭採掘山）より、約470tの石炭が採掘。向定吉が唐津藩石炭採掘の責任者となる。
1859年	石炭採掘場に人力ポンプが普及する。
1861年	瓦業以外の民間での石炭使用が禁止される。
1862年	唐津より5,400tもの石炭（粗コークス）が出荷される。
1864年	相知の押川に、藩の石炭採掘を管理する「御手山地方詰所」が設けられる。薩摩藩が厳木で石炭採掘を開始する（後に相知まで拡大）。
1865年	熊本藩・久留米藩が相知で石炭採掘を開始。
1867年	唐津藩は、幕府に対して600tの石炭を献上。
1868年	唐津藩は、明治新政府に対して3,000tの石炭を献上。佐賀藩が相知で石炭採掘を開始する。
1871年	薩摩藩経営の御手山が明治海軍に譲渡される。
1875年	旧唐津城二ノ丸内に海軍予備炭田所が設けられる。佐賀県内の石炭出炭量が全国1/4を占める。
1882年	唐津港から海外への石炭輸出が許可される。
1885年	竹内綱・明太郎親子により、芳谷炭鉱（唐津市北波多）が開坑される。
1892年	長部田（唐津市相知町）で三井が石炭採掘を開始。
1895年	高取伊好が相知炭鉱を経営する。
1898年	山本～妙見間の鉄道が開通すると同時に、同間の石炭専用鉄道も開通。
1900年	高取伊好、三菱に相知炭鉱を売却。
1908年	三菱合資会社長崎支店唐津出張所が竣工（1910年唐津支店に昇格）。
1911年	竹内明太郎により芳谷炭鉱の機械部門担当として設立された唐津鉄工所（現唐津プレシジョン）が生産開始。この年、芳谷炭鉱が三菱に売却される。この年の唐津港からの輸出総額の9割が石炭。
1917年	住友が厳木炭鉱を買収。
1919年	貝島鉱業が岩屋（唐津市厳木町）で石炭採掘を開始。
1929年	世界恐慌が起こり、石炭業界が不調に陥る。住友が厳木炭鉱から撤退。
1933年	三菱が炭鉱を閉山し、唐津から撤退。

竹内綱

高取伊好

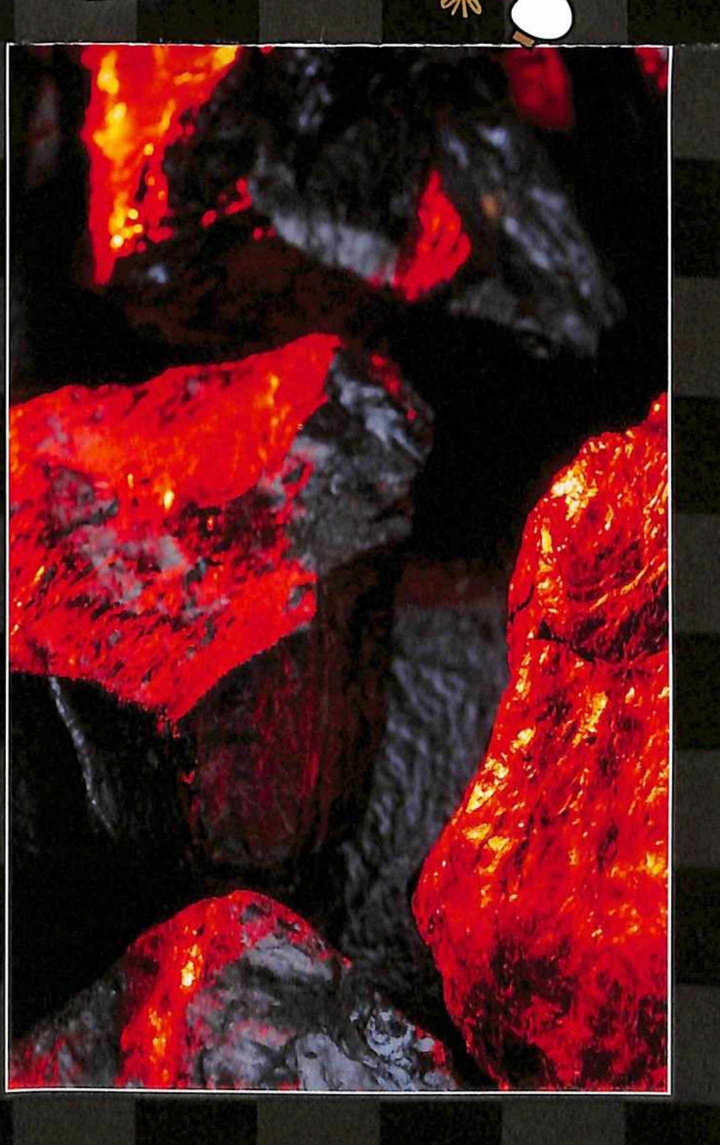
竹内明太郎

お問い合わせ先　唐津市役所 文化振興課
〒847-0013 佐賀県唐津市南城内1番1号
TEL 0955-53-7129　FAX 0955-72-9182

深発見

唐津石炭散策MAP

~幕末・明治編~



深発見 唐津石炭散策MAP ～幕末・明治編～

【幕末・明治期の唐津と石炭】

18世紀に北波多(唐津市北波多)で石炭が発見された事により唐津藩では天明8年(1788)に九州の諸藩に先駆けて、石炭関連の法律を定めて専売制としました。当時石炭は、主に塩田業や瓦業の燃料として使用され、幕末の藩主であった小笠原氏時代においても石炭採掘を奨励し、「拝借金制度」や「弁米制度」などを定めていました。
幕末期の唐津の石炭は、地表より1m程の浅い箇所に石炭層があるため採炭しやすく、さらに、松浦・厳木・徳須恵川という水系を利用した石炭運搬が容易であったことにより、採炭が盛んとなり、文久2年(1862)には、約5,400tもの石炭(粗コークス)が出荷されました。
元治・慶応年間(1864 ～1868)には、蒸気船の燃料等を求めて、幕府領となっていた唐津地方に薩摩藩・熊本藩・久留米藩・佐賀藩も役所を置いて採炭を行うなど、幕末から維新期の全国の石炭出炭量の約1/3が唐津の石炭でした。また、徳川方と考えられていた唐津藩が、明治新政府に許されたのも3,000tもの石炭献上によるものでした。
明治後、三井や住友も唐津に採炭に来ましたが、唐津の石炭に最も力を入れたのが三菱でした。明治31年(1898)に石炭運搬を主目的として山本・妙見間の鉄道が開通すると、三菱は、明治33年(1900)に相知炭鉱を高取伊好から買収、さらに、明治44年(1911)には、竹内綱より芳谷炭鉱を買収し、国際港でもある唐津港からは、海外にも石炭が輸出されていました。明治後期の唐津港からの輸出総額の9割が石炭で、近代唐津の街並みも石炭と共に発展していきました。